



ご紹介

レベルソの起源

4 つの章で振り返る

アイコニックなタイムピースの誕生背景

概要

- **レベルソ**：永遠のアイコンへの挑戦から生まれたスポーツウォッチ
- **その時代の精神を体現した真髄**：現代性、アールデコ様式、スポーツの DNA、革新性の融合
- **既成概念を打ち破るクリエイション**：大胆なデザインと独創的な機能性で時計製造の概念を覆したレベルソは、90 年以上経った今でも人々を魅了してやまない革新性の体現

2025 年、ジャガー・ルクルトは、1925 年にパリで開催された現代産業装飾芸術国際博覧会（パリ万国博覧会）の 100 周年を祝い、同時にレベルソの誕生にオマージュを捧げます。このパリ万国博覧会は、アールデコの誕生を象徴するものであり、この芸術運動こそがレベルソの時代を超越した美学を定義し、この時計を有名なデザインへと昇華させました。1930 年にインドのポロ競技場で考案されたという伝説的な誕生の背景を持つレベルソが、真の意味でアイコンとなっていたのです。

実用的でエレガント、そして一目でそれと分かる機能性とフォルムを見事に融合させたレベルソは、当初はスポーツウォッチとして位置付けられていました。しかし、男性にも女性にも似合うデザインとして、当初から本来のスポーツ用途の枠を超え、各界の審美眼のある人々の間で瞬く間に人気を博すようになりました。そしてレベルソは 1931 年以来、オリジナルのデザインとプロポーションに忠実であり、アールデコ調のラインとバランスの取れた美しさを保ちながら、常に進化を続けてきました。1990 年代に入ると、ジャガー・ルクルトは高度な複雑機構を取り入れるようになり、技術的な洗練度がさらに高まりました。ユニークなリバーシブルケースを備えた稀に見る長寿のデザインであるレベルソは、嗜好の移り変わり、社会の変化、そして技術の進歩の中で、90 年以上もの間、永遠にモダンな姿を呈し続けてきたのです。

モダニティとレベルソ、狂騒の 20 年代が生んだアイコン

レベルソの起源は、その誕生に先立つ 10 年間にあります。それは、世界がほとんど認識できないほど変化した、めくるめく文化的環境でした。第一次世界大戦というおぞましい経験を経て訪れた



1920年代は社会と経済が大きく変化し、芸術と文化が大いに栄え、テクノロジーがかつてない進歩を遂げました。

めまぐるしく変化する社会の中で、若者たちはその両親たちが受け継いできた道徳観に反抗し、新たに見出した豊かさを受け入れ、快楽主義と過剰な文化を生み出していきます。F・スコット・フィッツジェラルドが『華麗なるギャツビー』で書いたように「パーティーはますます華やかになり、物事のペースは加速し、ビルはより高くなったが、規律は緩んでいった」のでした。

新しく、そしてより寛容な道徳観は、大胆な服装や行動スタイルで表現され、厳格な慣習は姿を消し、現代性と利便性を求める動きに応じて、男性の時計はポケットから手首へと移行しました。

実験的な芸術運動（シュルレアリスム、ダダ、イタリア未来派、ドイツ表現主義）は、画期的な文学スタイル（アーネスト・ヘミングウェイ、ジェイムズ・ジョイス、ヴァージニア・ウルフ、ラングストン・ヒューズ）と共に花開きました。陽気な楽観主義と大胆な実験的ムードを反映して、アフリカ系アメリカ人のコミュニティから新しい音楽形態であるジャズが生まれ、この年代を象徴するようになりました。

好景気に後押しされ、自動車や航空からエンターテインメントまで、テクノロジーの影響はあらゆるところで感じられるようになりました。

- ヘンリー・フォードによるフォード・モデルTがもたらした、自動車所有の民主化
- 1927年、チャールズ・リンドバーグが大西洋単独横断飛行に成功
- 1927年に無声映画から「トーキー映画」へと飛躍したハリウッド、ラジオに革命をもたらした新しい録音技術、家庭へと浸透した娯楽
- 1920年代後半、「ハーレム・ルネッサンス」期のアフリカ系アメリカ人文化の勃興に大きな影響を与えたジャズ・トランペッターのルイ・アームストロング、1927年、パリのフォーリー・ベルジェールでレビューのスターとしてセンセーションを巻き起こしたミズーリ州生まれのジョセフィン・ベイカー

これは、真の意味での近代の幕開けであり、狂騒の20年代、あるいはジャズ・エイジと呼ばれました。「狂騒の20年」とは、フランス語の「les années folles（クレイジーな年代）」を直訳したものです。非凡なものが高く評価された時代に、このような精神は、次の10年の幕開けに「並外れた」コンセプトを持つレベルソによって受け継がれました。

モダニティー。その時代の大胆さから生まれたレベルソは、独創性の革命的シンボルとして、変貌する世界の精神を完璧に捉えています。懐中時計がまだ一世を風靡していた時代に腕時計として発表されたこの時計は、時間を身につけるという新しい方法を提案したのです。美しいカラーの文字盤とすっきりとしたラインのインデックスは、当時の主流であったシルバー文字盤にローマ数字やアラビア数字の組み合わせとは対照的で、既成概念を覆すものでした。レベルソは単なるタイムピースにとどまらない、大胆で、時代を先取りした存在として、未来を変えた時代の創造性と反骨の精神を体現するアイコンとなりました。



アールデコとレベルソ、新しい時代の新しい美学

1920年代に登場した革命的な芸術的表現であるアールデコは、人々の生活に劇的な変化が起こり、デザインに対する姿勢にも別の視点が現れた時代を象徴するものでした。戦前の精巧な装飾と夢のようなロマンティシズムはもはやふさわしくなく、新しい美学の流線型のシンプルさ、秩序、幾何学、純粋なラインは、楽観主義と明るい未来を物語るものでした。

アールデコは、建築やファッションからグラフィックアートまで、あらゆる分野を網羅するデザイン分野での芸術運動であり、大型客船から金のシガレットケースまで、あらゆる規模や分野で展開しました。新しいテクノロジーに触発され、すっきりとしたフォルム、金属や新開発のプラスチックの使用など、機械時代の精神を体現するものでもありました。古代バビロニア、エジプト、アステカの建築様式を参考にしながら、フランスのキュビズム、オランダのデ・スタイル、イタリアの未来派からの影響も取り入れたアールデコは、その洗練されたエフォートレスな魅力で、ジャズ・エイジの享樂的なムードを完璧に反映させていました。

アールデコという言葉は 1960 年代後半に作られたものですが、その名称は、この新しいスタイルの決定的な場面となった 1925 年にパリで開催された現代産業装飾芸術国際博覧会に由来しています。この様式が世界的に広まるにつれ、ニューヨークはクライスラー・ビルディング（1930 年）やエンパイア・ステート・ビルディング（1931 年）に代表される第二の開発拠点となりました。またシンガポールからキューバ、ムンバイからマイアミに至るまで、アールデコ建築の原型は今でも数多く残されています。

アールデコの洗練は、その装飾的な華やかさの奥に、「形は機能を表現するものである」というバウハウスの原則を色濃く表現しています。優れたデザインとは、目的、実用性、エレガンスをバランスよく兼ね備えています。その幾何学的な形状は、一見すると鮮明な直線ですが、よく見ると丸みを帯びた形と微妙な曲線が見られます。アールデコの原理と黄金比（人間の目に心地よい比率）を融合させたデザインは、レベルソが 90 年以上にわたって変わらぬ魅力を保ち続けている理由のひとつです。

アールデコ様式の真髄から生まれたレベルソは、アールデコの大胆でモダンな美学を示す不朽のモデルです。その特徴的な長方形は伝統を打ち破り、それまで時計の主流であった円形のデザインに果敢に挑むものでした。クリーンなライン、幾何学的なフォルム、流線型のエレガンスを謳歌した時代のスピリットを受け継ぎ、今にも変革を経験しようとしていた世界の楽観主義を反映しています。フォルムと機能をシームレスに融合させたレベルソは、洗練、革新、先見性といったアールデコの真髄を体現し、美とクラフツマンシップの不朽のアイコンとしての地位を確固たるものにしています。

スポーツの DNA とレベルソ、スポーツ・ジェントルマンの出現

1920 年代の解放の精神は、健康に対する関心の高まりを後押しし、スポーツを人気の余暇活動と社交の場として定着させました。フレンチ・リビエラでの夏の休暇は流行となり、日焼けは健康と



豊かさの象徴となりました。コート・ダジュール行きの豪華特急「ル・トラン・ブルー」は、ニジンスカがセルゲイ・ディアギレフのバレエ・リュス（ロシア・バレエ団）のためにバレエを制作するインスピレーションの源にもなりました。ラジオなどの新しいテクノロジーは、スポーツを大衆娯楽に変え、家庭に解説を持ち込みました。また、1930年の第1回サッカー・ワールドカップのようなイベントを世界的な意義にまで高め、男女を問わずスポーツのチャンピオンに関心の的としたのです。テニス、ゴルフ、水泳、ヨット、スキーといった娯楽への熱狂は、ファッションの変化にも反映されました。

- ガブリエル・シャネルは大胆にも女性にパンツを提案
- プリンス・オブ・ウェールズ（後のウィンザー公爵）は、アーガイル柄のジャンパーやツイードのプラス4といった「ゴルフウェア」の流行に火をつける
- テニスプレーヤーのルネ・ラコステは、コート上での自由な動きを求めて、自分の名を冠した定番の半袖コットンニットシャツをデザイン

このような背景から、スポーツ・ジェントルマンという新しいカテゴリーが登場したのです。ル・マン 24 時間レース（1923 年初開催）の伝説的な「ベントレー・ボーイズ」や、世界中のカントリー・クラブでスポーツを楽しむ裕福なポロ選手たちに代表されるように、スポーツ・ジェントルマンはスタイル、大胆さ、魅力を併せ持つ存在であり、彼らにとって腕時計を身につけることはごく当たり前のことでした。

世界最古のチームスポーツのひとつとして知られるポロは、ペルシャからインドに伝わり、貴族たちに熱狂的に受け入れられました。19 世紀にイギリスの茶業者がそのポロをイギリスに持ち込み、貴族の間で人気を博しました。このスポーツのルールは「ハーリングム・ルール」として体系化され、ポロが英連邦諸国やその他の国々で広まるにつれ、広く使用されるようになります。インドでは、イギリスの植民地軍将校が熱心なプレーヤーとなり、ポロが社会生活の中心となりました。1930 年、スイスの実業家セザール・ド・トレーは、このような環境の中で、ポロ競技場の荒波に耐える時計の制作に挑みました。

スポーツの DNA を受け継ぐレベルソは、スポーツエリートのために構想されたタイムピースでした。スポーツがステータスを決定する時代に登場したレベルソは、ポロ競技の過酷さに耐えるよう設計され、比類ない耐久性と洗練されたエレガンスを融合させています。その独創的な回転式ケースは、スポーツ・ジェントルマンのアクティブで洗練されたライフスタイルに対応する腕時計の必要性に応えたものでした。レベルソは単なるタイムピースという存在を超え、スポーツ、パフォーマンス、スタイルのシンボルとなりました。

純粋な革新とレベルソ、機械時代の精神

空前の好景気に後押しされ、また多くの場合、第一次世界大戦中に得られた技術的進歩を活用することによって、1920 年代には人々の生活を一変させる画期的な発明が数多く生まれました。それらの



発明は、現在でも至るところで見られます。この 10 年間で、信号機、オープンカー、ジュークボックス、サングラスなど、数え切れないほどの技術革新が世界にもたらされました。

1833 年にグラン・メゾンを設立したアントワーヌ・ルクルトによって発明の精神が吹き込まれたルクルト・マニファクチュールでは、時計師たちが 1925 年にデュオプラン・ムーブメントを開発しました。この画期的な開発により、かつてないほどの小型化が実現します。1929 年に誕生したキャリバー101は、今日に至るまで世界最小の手巻きムーブメントのひとつであり続けています。1928 年には、マニファクチュールは気圧の変化を動力源とする画期的な時計「アトモス」を開発し、新たな偉業を成し遂げました。

一方、インドを訪れたセザール・ド・トレーは、ポロ競技に熱中していた英国陸軍将校たちから、競技の過酷さに耐える時計を作るよう命じられました。ド・トレーはヨーロッパに戻ると、ジャック＝ダヴィッド・ルクルトと共同でコンセプト・モデルを制作し、ジャガーSA とのコネクションを通じて、フランスの工業デザイナー、ルネ＝アルフレッド・ショヴォーにケースとその回転機能のデザインを依頼しました。

1931 年 3 月 4 日、ショヴォーは「支えの中でスライドし、完全に裏返すことができる時計」の特許を申請しました（特許 N° 712.868）。その年の暮れ、ド・トレーとルクルトは彼のデザインの権利を取得し、11 月にレベルソ（ラテン語で「I turn」の意）の名称を登録しました。そして彼らはケースメーカーのウェンガーに依頼し、流線型の長方形ケースを完成させました。

当初、ジャガー&ルクルトは独自の角型ムーブメント、キャリバー410を開発する間、タバネス・キャリバーを使用していましたが、1933 年にそのキャリバー410 がついに完成しました。1931 年秋までに、ド・トレーとルクルトは時計専門店であるスペシャリテ・オルロジェールを設立し、レベルソを含むジャガー・ルクルトの製品を商品化します。その後、1931 年冬に最初のレベルソが納品され、ここに不朽のアイコンが誕生することになりました。

20 世紀初頭の数十年間、グラン・メゾンは、時計製造における最も重要な技術的課題に取り組むだけでなく、卓越したスタイルの名声を培うことで、「ウォッチメーカーの中のウォッチメーカーTM」としてのアイデンティティを確固たるものにしました。1931 年までには、レベルソのような画期的なタイムピースを製作するという野心的な挑戦に応えることのできる唯一のマニファクチュールとしての地位を確立していました。このような達成は、1925 年のデュオプラン、1928 年のアトモス、1929 年のキャリバー101 といった革命的な作品にすでに見られる、比類なき発明精神によって実現したものです。ジャガー・ルクルトは、レベルソでさらに革新を進め、従来のゴールドの使用ではなくステイブライト・スチールを採用しました。この大胆な選択は、エレガンスの新たな基準を打ち立てただけでなく、マニファクチュールの先駆的な理念と前衛的なビジョンを完璧に体現しています。

アイコンは生まれるものではなく、作られるもの

真の革新として登場し、時計製造の世界を一変させたレベルソ懐中時計が主流だった時代に手首に着ける時計を大胆に導入し、時間を身につける方法を変えたのです。その長方形のフォルムは、何世紀



にもわたって受け継がれてきた丸い時計の伝統を覆し、印象的なカラー文字盤とインデックスマーカーは、ローマ数字とアラビア数字を配した従来のシルバー文字盤とは一線を画すものでした。しかし、真の偉業は、その象徴的な回転式ケースにありました。この前例のない機能では、機械の独創性と洗練されたエレガンスが融合されていたのです。製造当初からレベルソのキャリバーは長方形のケースの曲線に沿うように設計されており、これはスペースを十分に活用することで、キャリバーの精度を最大限に高めるための画期的なアプローチでした。1931 年、レベルソは独特な長方形のケースで、高級時計における革新と評価されました。ケースの形状に合わせたキャリバーを搭載し、衝撃や湿度、経年劣化からキャリバーを保護するために専用のケースリングがセットされていました。外側は、何もない裏蓋が希少なクラフトマンシップ（Métiers Rares™）の熟練した職人たちのキャンバスとなり、エナメル加工、エングレービング、細密画が施されました。誕生以来、レベルソは流行を凌駕し、男性用、女性用ともに、時代を超越したスタイルと大胆で破壊的なスピリットの体現であり続けています。

現代性、アールデコのエレガンス、スポーツの DNA、そして画期的な革新性がシームレスに融合したレベルソは、まさに自らが生きてきた時代を体現し、90 年以上もの間、その本質を失うことなく進化を続けてきました。根本的な変革の時代から生まれ、ポロ・プレーヤーの特別な要求に応えるために作られたこの時計は、独創的なデザインと完璧な仕上げにより、単なるタイムピース以上の地位を確立しています。レベルソは、20 世紀デザインの不朽のアイコンであり、時代を超越しながらも、常に時代の先端を行くモデルなのです。

1931 ポロ・クラブについて

レベルソの起源を讃える「1931 ポロ・クラブ」は、その誕生にインスピレーションを与えたポロの世界に敬意を表し、当時の精神を表現しています。このユニークなタイムピースが誕生した頃の 10 年間は、空前の好景気と技術革新の時代であり、衣服や音楽に新たな流行が生じ、アールデコという、まったく新しい芸術運動を生んだ社会的にも文化的にも激変の時代でした。スポーツが運動という位置付けからレジャーへと進化し、スポーツクラブが世界中で社会生活の拠点となったのもこの時代でした。このような環境の中、1858 年から 1947 年の英国統治時代のインドで、ポロをプレーする軍人たちによって、ポロ競技場の過酷な環境に耐える時計を制作してほしいという要望が出されました。実用的なニーズに対するユニークなソリューションであったレベルソは、今日、アールデコデザインのアイコンとなっています。



レベルソについて

1931 年、ジャガー・ルクルトは、20 世紀のデザインのクラシックとなるタイムピース、レベルソを発表しました。ポロの激しい試合にも耐えられるように作られており、すっきりとしたアールデコ調のラインと特徴的な反転式ケースを備えたこの時計は、瞬時に識別することができます。誕生から 90 年間、レベルソはアイデンティティに妥協することなく自らの存在を常に変化させてきました。79 種類以上のキャリバーに加え、39 件の特許を取得。何も描かれていないメタルの裏面はクリエイティブな表現のためのキャンバスとなり、エナメル、エングレービング、ジェムストーンなどで装飾が施されました。レベルソ誕生から 90 年以上経った今日でも、変わることなく、その誕生にインスピレーションを与えた現代の精神を象徴し続けています。

ジャガー・ルクルト - ウォッチメーカーの中のウォッチメーカー™

1833 年以来、ジャガー・ルクルトは、革新性と創造性への抑えきれない渴望に導かれ、故郷ジュウ渓谷の平穏な自然環境からインスピレーションを得て、複雑機構への熟練した技術とその精度で際立った存在となっています。ウォッチメーカーの中のウォッチメーカー™として知られるマニュファクチュールは、1,400 を超えるキャリバーの制作と 430 以上の特許を通して、その絶え間ない革新の精神を表現してきました。ジャガー・ルクルトの時計職人たちは、190 年以上にわたる蓄積された専門知識を駆使して、最先端の精密なメカニズムの設計、製造、仕上げ、装飾を行い、何世紀にもわたるノウハウと情熱を融合させ、過去と未来をつないでいます。時代を超え、常に時と共にあります。180 種類もの専門技術がひとつ屋根の下に集結したマニュファクチュールは、その技巧に、デザインの美しさと独特で控え目な洗練とを組み合わせ、高級時計に息吹を吹き込んでいます。